

中期目標期間 事業報告書

自 平成18年4月 1日

至 平成24年3月 31日

平成24年 6月

公立大学法人九州歯科大学

中期目標期間（平成18年度から平成23年度まで）における実績概要

I 全体概要

本学は、全国唯一の公立歯科単科大学であるという特色を活かし、中期計画において、優秀な歯科医療人を育てる教育、教育や社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。

この実現に向け、法人化のメリットを最大限に活かし、理事長のリーダーシップの下、主体的、自律的な大学運営を進める体制を確立し、人事の適正化、経営者の視点に立った財務運営、適正な評価制度の整備等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。

II 項目別概要

1 教育

学部長のリーダーシップの下、教務部会が中心となり、FDを通して「教育方法の改善」及び「カリキュラム改編」を中心に教育力の向上に努めた。

さらに、九州歯科大学の教育目標の原点である優秀な歯科医師を社会に輩出することに傾注し、国家試験合格率の向上を目指した。

学部長の下、教授会・教務部会・学年主任制度が一丸となって、学部教育に取り組んだ。

九州工業大学との歯工学連携大学院プログラムは順調に発展しており、単位互換制度を活用する学生が増加している。

平成22年度に開設した口腔保健学科は、1, 2年次生教育を進めてきた。

2 研究

中期計画に掲げる大学の教育や社会の発展に役立つ研究活動を進めた結果、外国雑誌掲載の研究論文や国際学会での発表数、さらに外部資金獲得金額も中期目標期間を通じて目標を上回った。

九州工業大学との歯工学連携も順調に成果を出しつつあり、ソウル大学・九州歯科大学・九州工業大学の3大学合同で国際シンポジウム（九州歯科大学主催）を開催し、歯工学連携の研究成果を世界に向けて発信することができた。

3 社会貢献

中期計画に掲げている地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施に向けて、中期目標期間を通じて様々な取組を行った。

平成21年度から開始した附属病院の診療科再編を終え、地域中核病院としての体制を強化した。特に、病診連携体制を充実させ、患者紹介率の向上を目指した。

さらに、ネパール歯科医療協力隊の活動を継続し、海外における歯科保健活動を展開した。

平成22年度からは、学部学生にこの活動への参加を呼びかけ、アジアにおける歯科保健活動を経験させることにより教育にも貢献できた。

4 業務運営等

業務運営については、大学の教育研究目標に沿って、弾力的かつ計画的な人員配置、予算配分を行った。

目的積立金を活用し、附属病院において設備更新計画に基づく機器の更新や設備の改修等を順次行つていった。

事務の効率化を図るために、業務の外部委託を進めた。

事務局機能の強化に向け、県派遣職員に依存しない事務局体制への移行を見据え、プロパー職員採用計画を策定した。

財務については、人件費の適正な管理や、外部資金の積極的な獲得などにより、安定的に運営してきた。

病院収入に関しては、診療報酬額の伸び悩みという問題もあるが、患者紹介率の向上や訪問診療の件数の伸びといった成果も見られている。

また、SPD（物品供給管理システム）による診療材料費の節減は、着実に効果が現れてきている。

評価については、外部認証評価において、独立行政法人大学評価・学位授与機構による認証評価を受けた結果、「基準を満たしている」という総合評価を受け、「改善を要する点」として指摘を受けた事項はなかった。

また、福岡県公立大学法人評価委員会の評価結果については、毎年、全学説明会で周知し、特に評価が低かった項目についてはその対応を検討し改善を図ってきた。

個人業績評価に関しては、適宜評価方法を見直すことによって制度の充実を図ってきており、給与支給にも反映を行っている。

情報公開については、中期計画に掲げる情報公開等の推進と個人情報保護の遵守を完遂すべく、中期目標期間を通じて様々な取組を行つた。

教育研究活動情報の公表の義務化に向け、広報・情報委員会に専門部会を設置し、公立大学協会のガイドラインに沿つて準備を行い、平成23年3月末にホームページでの公開及び公立大学協会ホームページへのリンクが完了した。

教職員に対しては、毎年研修会を開催し、情報公開の意義や個人情報保護の重要性等の啓発を行つた。

項目別の状況

中期目標 1. 教育	<p>「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 九州歯科大学は、高度な専門性を持ち先端医療を担える能力、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の個人業績評価制度と任期制を導入し、教育能力の向上と教育活動の活性化を図る。個人業績の評価は授業活動を中心として行い、その結果を人事や給与に反映させ、教員の職務へのインセンティブの付与を図る。</p> <p>(3) 優秀な学生の確保・育成 大学が求める優秀な学生を確保するため、高校訪問、出前講義、オープンキャンパスなどの広報活動を充実させ、高校生等に九州歯科大学の魅力を広く伝える。また、特待生制度の導入、入試方法の見直し、厳格な成績評価の実施などにより、優秀な学生を選抜し、育成する。 シラバスに、各科目の到達目標と成績評価基準を明確に示して学生の目標設定を容易にし、学生の学習意欲を高め、自主的な学習を促す。</p> <p>(4) 歯科医師国家試験合格率の向上及び就職支援の充実 学習相談などの学生の学習に対する支援を充実し、歯科医師国家試験合格率の向上に取り組むとともに、就職先開拓や求人情報の提供など、教職員が一体となって就職支援の充実を図る。</p>
---------------	---

項目	中期計画	実施事項	計画の実施状況																												
1 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 社会及び疾病構造の変化に対応できる人材を育成する。 ・医の倫理観、豊かな人間性、良好なコミュニケーション能力、広い視野を持った歯科医師及び歯科衛生士を育成する。 ・歯科医師及び歯科衛生士として必要な基礎的な医学歯学の知識を持つた人材を育成する。 ・学んだ知識・技術を生かし、臨床現場で最善の診断と治療ができる能力を育成する。 ・高度な治療技術のみならず、専門的な知識を併せ持った歯科医師を育成する。	1 【コミュニケーション能力、倫理観、探求心の育成】 ①患者の痛みを理解し、意思疎通ができる能力を養成するため医療行動学をはじめ、心理学、哲学などの素養教育を充実する。 ②高い倫理観を持った歯科医師及び歯科衛生士を育成するため、医の倫理を主とした倫理学といった素養教育を充実する。 ③学生が主体的・能動的に学習し、探求心を身につけるためテュートリアル教育を充実する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般教育科目において、新たにコミュニケーション能力開発と倫理観の醸成につながる科目（歯科医師入門学Ⅰ、Ⅱ）を開講した。(H18) 自ら考えて問題を解決する能力を培うテュートリアル教育を平成18年度以降本格導入し、継続的に取り組んでいる。(H18-23) 北九州地区4大学連携を活用し、非常勤講師による、中国語・韓国語（第2外国語）を開講した。(H19) 素養教育担当教員に対して、FDを通じて、教育法の改善を求めた。選択科目の非常勤講師に対しても、学部長が大学の教育方針を説明し理解を求め、歯科医学に興味を感じるような内容を組み込んだ。その結果、学生満足度が1、2年次選択科目で0.25アップ(H20実績：3.36 → H21実績：3.61) した。(H21) 選択科目の中で、歯科医学につながる素養科目を充実させた。(H21) 口腔保健学科と歯学科の合同で、基礎生命科学実習Ⅰ、Ⅱを開講した。(H22) 生物系授業及び前年度に導入した基礎生命科学実習Ⅰ、Ⅱの充実を図った。(H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>66%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>76%</td> <td>71%</td> </tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td> <td>36%</td> <td>51%</td> <td>38%</td> <td>38%</td> <td>25%</td> <td>18%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>-</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>33%</td> <td>25%</td> <td>27%</td> </tr> </tbody> </table> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生的成績 ：良以上60%以上 学生による授業評価 ：4以上60%以上 個人業績評価(授業活動) ：B以上80%以上 		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	66%	73%	73%	73%	76%	71%	学生による授業評価4以上	36%	51%	38%	38%	25%	18%	個人業績評価(授業活動)B以上	-	50%	50%	33%	25%	27%	
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																									
学生の成績良以上	66%	73%	73%	73%	76%	71%																									
学生による授業評価4以上	36%	51%	38%	38%	25%	18%																									
個人業績評価(授業活動)B以上	-	50%	50%	33%	25%	27%																									

中期計画		計画の実施状況																																										
項目	実施事項																																											
1 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成の継続	2 【歯科医師及び歯科衛生士として備えるべき基礎的知識に関する教育の徹底】 学生が確実に知識および技術を身につけられるよう、教育方法の工夫・改善を行う。 ○達成目標 ・ 学生の成績 ：良以上60%以上 ・ 学生による授業評価 ：4以上60%以上 ・ 個人業績評価（授業活動） ：B以上80%以上	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部長主導のもと、古典的な区分「解剖学」、「口腔解剖学」、「生理学」、「口腔生理学」、「生化学」といった枠組みを「基礎生命科学」及び「口腔基礎生命科学」に統合し、学生に分かり易いカリキュラム編成にした。(H18-19) 本館に新設した「相互実習室」、「シミュレーション実習室」で態度教育実習を開始し、ロールプレーなど新たな教育手法を導入した。(H19-23) 3年次の「感染と免疫Ⅲ」及び「感染と免疫Ⅳ」において、「微生物学」、「薬理学」、「予防歯科学」、「内科学」を軸とした、感染症に関するチュートリアル教育（4単位）を行った。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td><td>63%</td><td>67%</td><td>68%</td><td>66%</td><td>69%</td><td>67%</td></tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td><td>23%</td><td>20%</td><td>25%</td><td>35%</td><td>30%</td><td>24%</td></tr> <tr> <td>個人業績評価（授業活動）B以上</td><td>36%</td><td>50%</td><td>48%</td><td>48%</td><td>24%</td><td>35%</td></tr> <tr> <td>CBT平均正答率（九州歯科大）</td><td>83%</td><td>80%</td><td>76%</td><td>76%</td><td>76%</td><td>74%</td></tr> <tr> <td>（全国平均）</td><td>78%</td><td>76%</td><td>74%</td><td>73%</td><td>73%</td><td>73%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	63%	67%	68%	66%	69%	67%	学生による授業評価4以上	23%	20%	25%	35%	30%	24%	個人業績評価（授業活動）B以上	36%	50%	48%	48%	24%	35%	CBT平均正答率（九州歯科大）	83%	80%	76%	76%	76%	74%	（全国平均）	78%	76%	74%	73%	73%	73%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																						
学生の成績良以上	63%	67%	68%	66%	69%	67%																																						
学生による授業評価4以上	23%	20%	25%	35%	30%	24%																																						
個人業績評価（授業活動）B以上	36%	50%	48%	48%	24%	35%																																						
CBT平均正答率（九州歯科大）	83%	80%	76%	76%	76%	74%																																						
（全国平均）	78%	76%	74%	73%	73%	73%																																						
	3 【的確な判断能力、治療技術力の育成】 ①豊富な事例を通して、患者の訴えや症状から、疾病原因の正確な診断や最適な治療方法を見出すことのできる能力を身につける。 ②臨床実習において、技術力や診断能力が身についているか厳格に評価する。 ③歯科臨床に対する高い意識と研究心を養うため、研究室配属を5年生すべてを対象に行う。（歯学科のみ） ④卒業論文指導を通して研究心を養う。（口腔保健学科のみ） ⑤医療に携わる者としての使命感を育成するため、口腔保健活動や救急車同乗実習などを充実する。 ⑥医療経営および社会保険制度に関する教育を充実させる。 ○達成目標 ・ 学生の成績 ：良以上80%以上 ・ 学生による授業評価 ：4以上60%以上 ・ 個人業績評価（授業活動） ：B以上80%以上	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 附属病院における臨床実習書を改訂し、参加型統合実習を充実させた。(H18-19) 本館に新設したシミュレーション実習室及び技工実習室におけるビデオコンテンツを開発し、AVシステムによる実習を開始した。(H20) H18年度から北九州市の協力を得て、5年次生の救急車同乗実習を開始した。 5～6年次生における病院臨床を統合し、臨床実習における参加型実習の割合を10%向上（H20：40% → H23：50%）させた。5～6年次生の統合型臨床実習を充実させ、「総合歯科外来」では、全ての学生が参加型実習を行える体制を整えた。(H21-23) 3～4年次の実習システムを統合し、新たに作成したAVコンテンツ（実習書をモニター画面上で供覧できるシステム）を用いて臨床基礎実習教育を充実し、使用率が70%に達した。(H21-23) O S C E 合格率：100%を維持した。(H18-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td><td>-</td><td>81%</td><td>88%</td><td>75%</td><td>87%</td><td>90%</td></tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td><td>-</td><td>34%</td><td>35%</td><td>28%</td><td>25%</td><td>60%</td></tr> <tr> <td>個人業績評価（授業活動）B以上</td><td>-</td><td>50%</td><td>48%</td><td>48%</td><td>24%</td><td>35%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	-	81%	88%	75%	87%	90%	学生による授業評価4以上	-	34%	35%	28%	25%	60%	個人業績評価（授業活動）B以上	-	50%	48%	48%	24%	35%														
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																						
学生の成績良以上	-	81%	88%	75%	87%	90%																																						
学生による授業評価4以上	-	34%	35%	28%	25%	60%																																						
個人業績評価（授業活動）B以上	-	50%	48%	48%	24%	35%																																						

中期計画		計画の実施状況																												
項目	実施事項																													
「1 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成の継ぎ	<p>4 【専門医療、高度先進医療を行える人材の育成】</p> <p>①高齢者、要介護者の口腔ケアや摂食・嚥下指導のための歯科医師及び歯科衛生士を育成し、摂食機能リハビリテーション分野を充実する。</p> <p>②高度な専門性を持ち、先端医療を担える医療人の育成を行うために歯科矯正科、歯周病科、口腔外科等の専門診療部門の教育内容を継続的に見直す。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績 ：良以上60%以上 ・学生による授業評価 ：4以上60%以上 ・個人業績評価（授業活動） ：B以上80%以上 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属病院の「歯科矯正科」、「歯周病科」、「口腔外科」における臨床実習を充実させた。(H18-19) ・専門医療及び高度先進医療技術に関する知識を深めるためにポートフォリオ（学生自身が学習達成度を管理するシステム）を導入した。H21年度は60%の診療で活用し(H20：40%)、そこで得た学習達成度ファイルを分析した。(H20-21) ・統合型臨床実習における専門医療及び先進医療に関する臨床実習を10%(H20：40% → H23：50%)増加させ、口腔ガン、顎骨骨折、外科的歯科矯正などを附属病院病棟や手術室で見学する機会を増やした。(H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td><td>67%</td><td>81%</td><td>88%</td><td>75%</td><td>87%</td><td>90%</td></tr> <tr> <td>学生による授業評価4以上</td><td>-</td><td>33%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>40%</td><td>33%</td></tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td><td>-</td><td>55%</td><td>48%</td><td>48%</td><td>34%</td><td>33%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	67%	81%	88%	75%	87%	90%	学生による授業評価4以上	-	33%	100%	100%	40%	33%	個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	33%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学生の成績良以上	67%	81%	88%	75%	87%	90%																								
学生による授業評価4以上	-	33%	100%	100%	40%	33%																								
個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	33%																								
5 【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】	<p>①各科目の到達目標と成績評価基準をシラバスに明示し、厳格な成績評価を行う。</p> <p>②科目間で整合性のある成績評価方法を検討する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績 ：良以上60%以上 ・国家試験合格率 ：全国10位以内 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療系大学（医学・歯学）におけるモデル・コア・カリキュラムに準じたシラバス作りを行い、各教科の評価をシラバスに表示した。(H18) ・オリエンテーション等で成績評価について学生に周知し、厳正な評価を行った。(H18-23) ・カリキュラム改訂が進む中で、休学あるいは留年した学生に対しても、理解できるような対応を行った。(H19-23) ・シラバスに評価基準及び到達目標を明示した。さらに、シラバスにモデル・コア・カリキュラムに準じた教育で習得できる範囲を明示したことで、個々の科目と歯学モデル・コア・カリキュラムの対応を分かり易くした。さらに学年主任と副任を各学年に配置し、学生の修学状況を把握する体制を構築した。(H21-23) ・FDワークショップに全教員が参加し、活発な意見交換を行った。(H21-23) ・2~3年次の「歯科医師入門学」で学生に行動計画表を提出させた。(H21-23) ・1~6年次生全学生及び保護者に成績表を送付した。その中で精神的に不安定な学生及び成績不振学生の保護者に対しては、北九州で保護者説明会を開催した。(H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td><td>73%</td><td>72%</td><td>73%</td><td>70%</td><td>76%</td><td>75%</td></tr> </tbody> </table> <p>※国家試験合格率の実績については教育の1-6に記載</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	73%	72%	73%	70%	76%	75%														
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学生の成績良以上	73%	72%	73%	70%	76%	75%																								

中期計画		計画の実施状況																																																															
項目	実施事項																																																																
1 地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成の継続	<p>6 【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①全国の歯学部で行われている共用試験Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CBT)を成績評価の対象とする。(歯学科のみ)</p> <p>②国家試験の合格率を上げるために入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、入試、教育方法、成績評価基準などの見直しにつなげるシステムをつくり、常に検証していく。(共用試験は歯学科のみ)</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育方法等の見直しにつなげるシステムの構築 : H19までに構築し、常に改善していく。 ・国家試験合格率 : 全国10位以内(歯学科) ・共用試験の平均成績 : 全国平均以上 ・国家試験 : 全員合格(口腔保健学科) 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共用試験(CBT, OSCE)を臨床実習前に合格すべき要件とし、教授会で合格基準をCBT正答率60%、OSCE得点率60%に設定した。(H18) ・学生の成績評価にGPAシステムを導入し、年度毎に学生及び保護者に「成績証明書」を開示し、成績不振者には個別に対応した。(H19-21) ・成績不振者等を対象に保護者個別説明会を東京及び北九州で開催した。(H20-22) ・入学試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析したデータを保護者に示した。 ・共用試験(CBT, OSCE)のデータを学生に返却し、弱点を明示して、不得意科目を克服できるようにし、修学意欲向上させた。さらに、担当教員に対しても担当科目の平均点を明示し、全国平均点と比較検討させ、教育効果という視点でシラバスの改善を求めた。(H21-23) ・教務部会で共用試験データを分析し、FDワークショップで本学の教育における弱点について意見交換し、統合型に向けての教育連携の必要性を示した。(H21-23) ・講義に、臨床症例画像を多く取り入れて治療方法などが分かり易い授業を行った。(H21-23) ・6年次生および既卒不合格者における国家試験対策を充実させた。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学生の成績良以上</td> <td>-</td> <td>72%</td> <td>73%</td> <td>70%</td> <td>76%</td> <td>75%</td> </tr> <tr> <td>学生の授業評価4以上</td> <td>-</td> <td>42%</td> <td>34%</td> <td>32%</td> <td>26%</td> <td>49%</td> </tr> <tr> <td>個人業績評価(授業活動)B以上</td> <td>-</td> <td>55%</td> <td>48%</td> <td>48%</td> <td>34%</td> <td>31%</td> </tr> <tr> <td>共用試験CBT平均回答率</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(九州歯科大学)</td> <td>83%</td> <td>80%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>(全国29大学平均)</td> <td>78%</td> <td>76%</td> <td>74%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> <td>73%</td> </tr> <tr> <td>OSCE</td> <td>76%</td> <td>76%</td> <td>79%</td> <td>82%</td> <td>87%</td> <td>85%</td> </tr> <tr> <td>歯科医師国家試験合格率全国順位</td> <td>6位</td> <td>11位</td> <td>19位</td> <td>10位</td> <td>4位</td> <td>18位</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学生の成績良以上	-	72%	73%	70%	76%	75%	学生の授業評価4以上	-	42%	34%	32%	26%	49%	個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	31%	共用試験CBT平均回答率							(九州歯科大学)	83%	80%	76%	76%	76%	74%	(全国29大学平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%	OSCE	76%	76%	79%	82%	87%	85%	歯科医師国家試験合格率全国順位	6位	11位	19位	10位	4位	18位
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																											
学生の成績良以上	-	72%	73%	70%	76%	75%																																																											
学生の授業評価4以上	-	42%	34%	32%	26%	49%																																																											
個人業績評価(授業活動)B以上	-	55%	48%	48%	34%	31%																																																											
共用試験CBT平均回答率																																																																	
(九州歯科大学)	83%	80%	76%	76%	76%	74%																																																											
(全国29大学平均)	78%	76%	74%	73%	73%	73%																																																											
OSCE	76%	76%	79%	82%	87%	85%																																																											
歯科医師国家試験合格率全国順位	6位	11位	19位	10位	4位	18位																																																											

中期計画		計画の実施状況																																										
項目	実施事項																																											
2 適性のある優秀な人材の確保・育成 歯科医師及び歯科衛生士としての適性を有する優秀な人材を確保し、育成する。 ・アドミッションポリシーを具体的かつ明確にして学生募集を行う。 ・特待生制度を導入して優秀な学生を確保する。	<p>1 【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】 ①アドミッションポリシーを明確にしてAO入試や特待生入試など優秀な学生を確保するための入試を導入する。</p> <p>○達成目標 - 特待生入試 : 辞退率0% - 推薦入試 : 受験倍率2.5倍 辞退率0% - 一般入試 : 受験倍率10倍 辞退率3% : センターランク83%以上 (前期・後期平均)</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドミッションポリシーをホームページ等で明示した。(H18) ・高校訪問、予備校訪問あるいは高校での出前講義等を充実させ、本学のアドミッションポリシーを積極的に発信した。(H18-23) ・H21年度入試にAO入試の導入を決め、H20年度に実施運営した。(H20) ・アドミッションポリシーに従い、厳正なAO入試(H21.11月実施)を行い、10名の合格者を得た。募集定員は17名であったが適正な入試合否判定を行い、求める学生に合致した学生を選抜した。(H21) ・AO入試による入学者の学年成績について学教務システムを用いてデータ収集を行った。(H21-23) ・AO入試に関連したFDを開始し、教員へアドミッションポリシーの周知徹底を図った。(H21) ・H21年度AO入試も含め、入試方法別に成績をフォローする学教務システムを構築した。(H21) ・FDでAO入試をテーマとして取り上げ、教員の意識を向上させ、アドミッションポリシーに沿った形で、AO入試の面接と集団討論の採点を行った。(H21) ・口腔保健学科についても、AO入試を実施した。(H22-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般入試の受験倍率</td><td>5.3倍</td><td>5.4倍</td><td>3.0倍</td><td>3.6倍</td><td>4.2倍</td><td>5.3倍</td></tr> <tr> <td>同辞退率</td><td>9.6%</td><td>3.6%</td><td>7.7%</td><td>10.6%</td><td>7.7%</td><td>6.4%</td></tr> <tr> <td>推薦入試の受験倍率</td><td>2.4倍</td><td>2.4倍</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> <tr> <td>AO入試の受験倍率</td><td>-</td><td>-</td><td>4.5倍</td><td>5.0倍</td><td>3.6倍</td><td>4.1倍</td></tr> <tr> <td>センターランク</td><td>85</td><td>81</td><td>83</td><td>83</td><td>75</td><td>75</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	一般入試の受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍	同辞退率	9.6%	3.6%	7.7%	10.6%	7.7%	6.4%	推薦入試の受験倍率	2.4倍	2.4倍	-	-	-	-	AO入試の受験倍率	-	-	4.5倍	5.0倍	3.6倍	4.1倍	センターランク	85	81	83	83	75	75
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																						
一般入試の受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍																																						
同辞退率	9.6%	3.6%	7.7%	10.6%	7.7%	6.4%																																						
推薦入試の受験倍率	2.4倍	2.4倍	-	-	-	-																																						
AO入試の受験倍率	-	-	4.5倍	5.0倍	3.6倍	4.1倍																																						
センターランク	85	81	83	83	75	75																																						
2 在校生対象の特待生制度等の導入 ①優秀な学生を確保するために在校生を対象とした特待生制度を導入する。 ②ティーチングアシスタント(TA)、リサーチアシスタント(RA)制度を導入する。 ③現在の奨学金制度等を充実させ、学生の経済的支援を図る。	<p>○達成目標 - 特待生制度導入の成果測定(概ね導入後3年目から実施) 学生の平均成績(各学年ごと)、国家試験合格率 - 在学生の平均成績 : 良以上60% - 国家試験合格率 : 全国10位以内</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの在校生に奨学金が貸与されるように、永松奨学会(本学の学生・大学院生のための奨学金制度)と協議し、H20年度の貸与学生枠が3名分拡充された。(H18-23) ・優秀な学生確保の一貫として、ティーチングアシスタント(TA)及びリサーチアシスタント(RA)制度を立ち上げて実施運営した。(H18-23) ・TAまたはRA制度を75%の大学院生が活用し、次世代を担う教育者・研究者としての素養を培った。(H21-23) ・教員が永松奨学会の理事会・評議会の役員として協力し、学生に永松奨学会の運営システムをきめ細やかに説明することにより、奨学金を利用しやすい環境作りを行った。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学院充足率</td><td>58%</td><td>64%</td><td>70%</td><td>70%</td><td>79%</td><td>72%</td></tr> <tr> <td>TA及びRAの延べ従事実績</td><td>1803時間</td><td>1434時間</td><td>1791時間</td><td>1719時間</td><td>1765時間</td><td>2258時間</td></tr> </tbody> </table> <p>※国家試験合格率の実績については教育の1-6に記載 ※特待生制度の導入については、より効果のある制度構築のため、導入を保留した。</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	大学院充足率	58%	64%	70%	70%	79%	72%	TA及びRAの延べ従事実績	1803時間	1434時間	1791時間	1719時間	1765時間	2258時間																					
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																						
大学院充足率	58%	64%	70%	70%	79%	72%																																						
TA及びRAの延べ従事実績	1803時間	1434時間	1791時間	1719時間	1765時間	2258時間																																						

中期計画		計画の実施状況																																																																																																																
項目	実施事項																																																																																																																	
2 適性のある優秀な人材の確保・育成の続き	<p>3 【広報活動の充実】</p> <p>①オープンキャンパスの実施内容を改善する。</p> <p>②出前講義や高校訪問を実施する。</p> <p>③各新聞社、放送局等が主催する大学説明会に積極的に参加する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校訪問数 : 延べ110校 ・入試説明会参加数 : 10 ・出前講義数 : 延べ2校 ・オープンキャンパス参加者数 : 210 ・高校訪問アンケート : 良好評価60%以上 ・入試説明会参加者アンケート : 良好評価60%以上 ・出前講義参加者アンケート : 良好評価60%以上 ・オープンキャンパス参加者アンケート : 評価4以上50% <p>歯学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数(志願倍率) : 960人(10倍) ・受験者数(受験倍率) : 760人(8倍) <p>口腔保健学科</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志願者数(志願倍率) : 75人(3.0倍) ・受験者数(受験倍率) : 60人(2.4倍) 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化後、オープンキャンパスを企画立案し、本館新築時から本格的な活動を行った。H23年度の模擬講義には180名を超える参加者を得て実施し、アンケート調査でも高い評価を得ることができた。(H18-23) ・法人化前は各メディアが主催する大学説明会に参加するだけであったが、法人化後は、教職員が九州・沖縄・中国地区の高校を訪問し、九州歯科大学の歯学教育をアピールした。(H18-23) ・高校や予備校における出前講義を行い、公立の医療系大学としての存在感をアピールした。(H18-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス参加者</td><td>99名</td><td>154名</td><td>204名</td><td>192名</td><td>264名</td><td>337名</td></tr> <tr> <td>参加者アンケート「4」以上</td><td>-</td><td>96%</td><td>90%</td><td>90%</td><td>92%</td><td>95%</td></tr> <tr> <td>出前講義数(予備校含む)</td><td>3校</td><td>2校</td><td>3校</td><td>1校</td><td>3校</td><td>3校</td></tr> <tr> <td>高校訪問(県内)</td><td>35校</td><td>35校</td><td>48校</td><td>49校</td><td>52校</td><td>49校</td></tr> <tr> <td>高校訪問(県外)</td><td>14校</td><td>16校</td><td>33校</td><td>42校</td><td>55校</td><td>58校</td></tr> <tr> <td>高校訪問(計)</td><td>49校</td><td>51校</td><td>81校</td><td>91校</td><td>107校</td><td>107校</td></tr> <tr> <td>高校訪問良好結果</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>100%</td><td>99%</td><td>93%</td></tr> <tr> <td>予備校訪問</td><td>4校</td><td>17校</td><td>14校</td><td>14校</td><td>14校</td><td>21校</td></tr> <tr> <td>入試説明会</td><td>5回</td><td>3回</td><td>9回</td><td>11回</td><td>18回</td><td>22回</td></tr> <tr> <td>(歯学科(一般入試))</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>志願倍率</td><td>7.3倍</td><td>6.9倍</td><td>3.3倍</td><td>4.4倍</td><td>4.7倍</td><td>5.9倍</td></tr> <tr> <td>受験倍率</td><td>5.3倍</td><td>5.4倍</td><td>3.0倍</td><td>3.6倍</td><td>4.2倍</td><td>5.3倍</td></tr> <tr> <td>(口腔保健学科(一般入試))</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>志願倍率</td><td></td><td></td><td></td><td>1.9倍</td><td>2.7倍</td><td>3.4倍</td></tr> <tr> <td>受験倍率</td><td></td><td></td><td></td><td>1.8倍</td><td>2.4倍</td><td>3.0倍</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	オープンキャンパス参加者	99名	154名	204名	192名	264名	337名	参加者アンケート「4」以上	-	96%	90%	90%	92%	95%	出前講義数(予備校含む)	3校	2校	3校	1校	3校	3校	高校訪問(県内)	35校	35校	48校	49校	52校	49校	高校訪問(県外)	14校	16校	33校	42校	55校	58校	高校訪問(計)	49校	51校	81校	91校	107校	107校	高校訪問良好結果	100%	100%	100%	100%	99%	93%	予備校訪問	4校	17校	14校	14校	14校	21校	入試説明会	5回	3回	9回	11回	18回	22回	(歯学科(一般入試))							志願倍率	7.3倍	6.9倍	3.3倍	4.4倍	4.7倍	5.9倍	受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍	(口腔保健学科(一般入試))							志願倍率				1.9倍	2.7倍	3.4倍	受験倍率				1.8倍	2.4倍	3.0倍
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																																																																																																												
オープンキャンパス参加者	99名	154名	204名	192名	264名	337名																																																																																																												
参加者アンケート「4」以上	-	96%	90%	90%	92%	95%																																																																																																												
出前講義数(予備校含む)	3校	2校	3校	1校	3校	3校																																																																																																												
高校訪問(県内)	35校	35校	48校	49校	52校	49校																																																																																																												
高校訪問(県外)	14校	16校	33校	42校	55校	58校																																																																																																												
高校訪問(計)	49校	51校	81校	91校	107校	107校																																																																																																												
高校訪問良好結果	100%	100%	100%	100%	99%	93%																																																																																																												
予備校訪問	4校	17校	14校	14校	14校	21校																																																																																																												
入試説明会	5回	3回	9回	11回	18回	22回																																																																																																												
(歯学科(一般入試))																																																																																																																		
志願倍率	7.3倍	6.9倍	3.3倍	4.4倍	4.7倍	5.9倍																																																																																																												
受験倍率	5.3倍	5.4倍	3.0倍	3.6倍	4.2倍	5.3倍																																																																																																												
(口腔保健学科(一般入試))																																																																																																																		
志願倍率				1.9倍	2.7倍	3.4倍																																																																																																												
受験倍率				1.8倍	2.4倍	3.0倍																																																																																																												

中期計画		計画の実施状況													
項目	実施事項														
3 教育の質の改善 ・教育実施体制や教育方法の改善・教育の質の改善のために評価、任期制導入、教員教育（FD）を推進する。	1 【教育活動の評価の実施及び任期制の導入】 ①学生による授業評価、同僚による授業評価を実施し、評価結果を個人業績評価に反映させる。 ②個人業績評価を実施し、評価結果の研究費配分や給与へ反映する。 ③任期制を導入する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学生による授業評価」の点数を個人業績評価に反映させた。(H18-23) 「同僚による授業評価」に関しては、H18年度は部局長による評価、H19年度は講座長による評価という異なる方法を行い、H20年度以降は講座長による評価を行った。(H18-23) 個人業績評価の結果を研究費配分や給与へ反映させる取組を行った。(H20-23) 任期制導入3年目に、理事会で「任期制教員再任基準」を決定し、教員に全学説明会で周知した。(H20-23) 「同僚による授業評価」を全ての科目に本格導入して、「学生による授業評価」とともに個人業績評価に反映させた。この数値をH21年度の学部長面談時に、全教員に示し、改善方法について意見交換を行った。(H21-23) 「学生による授業評価」及び「同僚による授業評価」の結果を各教員に示し、次期のシラバスに反映させた。(H21-23) 評価結果を給与配分に反映させるシステム「特別賞」（評価点数の総合平均点以上の者で、前年度に比べ評価点が向上した教員に上乗せ支給する。）をH20年度から導入したことに加え、法人・大学に特に貢献した活動を実施した教員に与える「特別賞」をH21年度に新設した。 													
	2 【FDの推進】 ①教員の資質の向上を目指して企画・内容を精選し、効率的なFDを実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価 ：4以上60%以上 ・個人業績評価（授業評価） ：B以上80%以上 ・研修会等FD活動への教員参加率 ：100% ・他の教員も使用できる教材、 学習指導法の開発 ：実習を中心に1年間5件以上、 H23年度までに科目の80%に 導入	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学部長を中心としたFD部会のもと、学生の教育に関する諸問題に力点をおいたテーマを設定し、FDを毎年実施してきたおり、H20年度以降は開催頻度を年10回以上に拡大した。 H23年度は学生に関わる諸問題を中心に11回のFD活動を行い、そのうち2回の参加率は100%に達した。10回平均しても93%の参加率が得られた。また、休日に1回のFDワークショップを開催し、教育手法についての情報を提供し、教育へのフィードバックを図った。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>FD活動参加率</td> <td>-</td> <td>69.8%</td> <td>95.4%</td> <td>98.0%</td> <td>97.9%</td> <td>92.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「学生による授業評価」、「個人業績評価」の目標実績は、教育の1-1～1-4に記載</p>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	FD活動参加率	-	69.8%	95.4%	98.0%	97.9%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23									
FD活動参加率	-	69.8%	95.4%	98.0%	97.9%	92.9%									
4 学生への支援 ・学生の学習に対する支援活動に取り組む。 ・卒業生の就職支援を充実させる。 ・学生の福利厚生を充実させる。	1 【学習相談・助言・支援の組織的対応】 ①学生にITアカウントを与え、学習についての相談や教育・教務関連情報の連絡に使用する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生にITアカウントを与え、学内ネットを活用した学生支援活動を開始し、その運用を年度毎に改善してきた。H21年度は、授業プリントを配付するシステムの設計を行った。(H18-23) カウンセリングや健康管理室での活動を充実させ、学生の身体面・精神面のサポート体制を強化してきた。H21年度は定期健康診断受診率向上など学生の健康意識が高まった。(H18-23) 「学生意見箱」や「何でも相談室」を設置し、学生の意見を取り入れる制度を導入した。H21年度からは、出された意見を教職員で構成する部会で検討し、ホームページを通じて改善策を周知した。(H19-23) 学生ポータルを活用した授業が3つ増加(3→6)した。(H21) 図書館の利用については、休日の開館や利用時間の延長等により、学生の利便性の向上を図った。(H22-23) 講義室の管理システムを改善し、放課後に学生の自習室として5室開放した。(H21-23) 													

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
4 学生への支援の 続き	<p>2 【就職先の開拓及び求人情報の 提供などの就職支援の充実】</p> <p>①卒業・研修後の就職支援体制 (リクルートシステム)を確立する。 ②就職先の調査・開拓</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・システム利用者の就職率 : 100% ・病院・施設等訪問数 : 30件以上 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法人化後、学内ネットを活用した求人情報検索システムの構築などにより、歯科医師募集情報が簡便に行えるように改善した。(H18-23) ・システム利用者の就職率 100% (臨床研修医) ・新たに設置した口腔保健学科に関する事項をホームページに加え、リニューアルした。(H21) ・学生支援として、「就職支援室」を新たに設置し運用を開始した。(H23) ・学長、学部長、病院長が企業・病院等を訪問し、口腔保健学科卒業生の特徴をアピールし、新たな就職先の開拓を行った。

教育に関する特記事項

九州工業大学と歯学・工学を融合させた領域の教育を行う大学院連携を開始し、単位互換を実施している。

項目別の状況

中期目標 2. 研究	「大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。」 九州歯科大学は、大学としての研究方針に基づき、研究者の連携や産学官連携を通じ、大学の教育と社会の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究費については、大学の財源を効果的に配分するとともに、外部研究資金の獲得に積極的に取り組む。
---------------	--

項目	実施事項	計画の実施状況																												
1 研究水準並びに研究成果の向上地域社会への貢献ができる高い水準の研究を行うことを全学共通の重要課題と位置づけ、研究の活性化を図る。	<p>1 【大学の方針に沿った研究に対する適正な研究者の配置・研究費の配分】 ①大学の方針に基づいて、分野内あるいは枠を超えた複数分野の研究者の連携で研究を活性化する。 ②現在の画一的な学内研究費予算配分を見直して、大学運営に貢献する研究成果に応じた配分を行うとともに、その研究費の評価システムを確立する。</p> <p>○達成目標 ・研究費に占める研究成果に応じて配分する研究費の割合 : 30%以上</p>	【中期目標期間の実施状況】 <ul style="list-style-type: none"> 9講座26分野の教員（研究者）の配置は、学長のリーダーシップのもと組織的に対応してきた。(H18-23) 学内研究費の画一的な配分を見直し、研究企画書に基づいて配分額を決定した。(H18-23) H19年度から研究実績報告書の提出を求め、研究費の費用対効果を検証するシステムを構築し実施運営した。(H19-23) H21年度は、研究企画書に基づいた研究費配分時に義務付けた実績評価書を検証して、研究費配分に反映させた。(H21-23) 学長枠研究費の配分に関しては、九州歯科学会での発表、市民公開講座での講演等を義務付け、地域社会への情報発信に努めた。(H18-23) 学長枠研究費の割合は33%となり、目標を上回って実施できた。そのうち若手研究者5名に対して、意欲を高めるために研究費を配分した。(H23) 大学院生86名に10万円を配分し、さらに研究生2名、専修生16名に対して研究費を配分した。(H23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学長枠研究費が占める割合</td> <td>30%</td> <td>35%</td> <td>38%</td> <td>32%</td> <td>32%</td> <td>33%</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	学長枠研究費が占める割合	30%	35%	38%	32%	32%	33%														
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
学長枠研究費が占める割合	30%	35%	38%	32%	32%	33%																								
	<p>2 【研究の事後評価・検証システムの構築・実施】 研究活動の事後評価・検証システムを確立して、研究者の意識を高めるとともに、毎年、各研究者の研究活動を公表することにより情報公開を実施する。</p> <p>○達成目標 ・論文数（査読ありのもの、学術書掲載のもの） : 70件（英文誌） ・学会発表（招待講演、シンポジスト招聘に限る） : 10件 ・特許・実用新案権件数 : 2件</p>	【中期目標期間の実施状況】 <ul style="list-style-type: none"> 個人業績評価時に提出する附属書で、年度実績を点数化し、客観的な研究活動評価検証システムを構築し実施運営した。(H18-23) 教員（研究者）の研究業績をホームページで公表した。(H19-23) 研究実績評価において、社会への貢献と歯科医学を支える研究という視点を重視した。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H18</th> <th>H19</th> <th>H20</th> <th>H21</th> <th>H22</th> <th>H23</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>論文数(英文)</td> <td>77件</td> <td>65件</td> <td>75件</td> <td>81件</td> <td>90件</td> <td>92件</td> </tr> <tr> <td>学会発表数(国際学会)</td> <td>33件</td> <td>11件</td> <td>15件</td> <td>21件</td> <td>25件</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>特許出願</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	論文数(英文)	77件	65件	75件	81件	90件	92件	学会発表数(国際学会)	33件	11件	15件	21件	25件	27件	特許出願	4件	4件	4件	4件	3件	3件
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																								
論文数(英文)	77件	65件	75件	81件	90件	92件																								
学会発表数(国際学会)	33件	11件	15件	21件	25件	27件																								
特許出願	4件	4件	4件	4件	3件	3件																								

中期計画		計画の実施状況																																			
項目	実施事項																																				
1 研究水準並びに研究成果の向上の継続	3 【外部研究資金の獲得】 研究資金を積極的に獲得する。 ○達成目標 ・科研費 ：年間50件以上、H23年度までに60件以上 ・受託研究・共同研究・奨学寄附金 ：年間10件以上、H23年度までに15件以上 ・外部資金収入額 ：1億円	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務局から外部資金募集情報を提供し、学内からの申請件数の増加を図った。更に、H21年度はホームページを利用して細やかな情報提供に努めた。(H18-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学研究費(件数)</td><td>50件</td><td>52件</td><td>58件</td><td>65件</td><td>68件</td><td>65件</td></tr> <tr> <td>科学研究費(金額)</td><td>91,020千円</td><td>95,460千円</td><td>125,480千円</td><td>102,001千円</td><td>119,353千円</td><td>131,987千円</td></tr> <tr> <td>受託研究費・奨学寄附金等(件数)</td><td>20件</td><td>19件</td><td>26件</td><td>23件</td><td>29件</td><td>30件</td></tr> <tr> <td>受託研究費・奨学寄附金等(金額)</td><td>29,743千円</td><td>28,261千円</td><td>37,589千円</td><td>30,882千円</td><td>49,756千円</td><td>53,911千円</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	科学研究費(件数)	50件	52件	58件	65件	68件	65件	科学研究費(金額)	91,020千円	95,460千円	125,480千円	102,001千円	119,353千円	131,987千円	受託研究費・奨学寄附金等(件数)	20件	19件	26件	23件	29件	30件	受託研究費・奨学寄附金等(金額)	29,743千円	28,261千円	37,589千円	30,882千円	49,756千円	53,911千円
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
科学研究費(件数)	50件	52件	58件	65件	68件	65件																															
科学研究費(金額)	91,020千円	95,460千円	125,480千円	102,001千円	119,353千円	131,987千円																															
受託研究費・奨学寄附金等(件数)	20件	19件	26件	23件	29件	30件																															
受託研究費・奨学寄附金等(金額)	29,743千円	28,261千円	37,589千円	30,882千円	49,756千円	53,911千円																															
	4 【産学官連携の推進】 歯科関連企業だけでなく、一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部の得意分野を活かした連携を推進する。 ○達成目標 ・産学官連携件数 ：年2件以上、H23年度までに10件	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 産学連携フェアへ研究成果を出展した。(H18-23) 産学連携（共同研究、受託研究）に積極的に取り組んだ。(H18-23) 寄附講座開設のための交渉を開始した。(H20) 北九州4大学（九州工業大学、北九州市立大学、産業医科大学、九州歯科大学）間で、定期的に学長会議を開催し、産学官連携の推進について協議した。(H18-23) 北九州産学連携フェアへの出展を通じて、地域企業に歯学研究をアピールした。H23年度は歯工学連携による研究成果を出した。(H18-23) 産学官連携が進み、G. U. I.（コンピュータ操作の対象が絵で表現されるシステム）による歯科ドック、口腔健康管理システムと設備管理システムの開発、歯科用インプラントを安全に埋入するための画像分析ソフトウェア及び唾液の分泌量と性状を調べることのできる機器を開発した。また、寄附講座開設可能な企業に関しては、歯周病診断キットを開発する会社と交渉を継続した。(H21-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>産学連携件数</td><td>4件</td><td>9件</td><td>6件</td><td>7件</td><td>5件</td><td>10件</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	産学連携件数	4件	9件	6件	7件	5件	10件																					
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																															
産学連携件数	4件	9件	6件	7件	5件	10件																															

項目別の状況

中期目標 3. 社会貢献	「大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。」 大学が保有する人材と歯科保健医療に関する高度な技術や情報等を活用して、開業歯科医師や歯科衛生士等を対象としたリカレント教育、診療所への歯科保健医療情報の提供などの事業を実施し、積極的な社会貢献を果たす。
-----------------	---

項目	中期計画 実施事項	計画の実施状況							
		H18	H19	H20	H21	H22	H23		
1 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施 大学全体が一丸となって、地域社会へ貢献する大学を目指すとともに、国際貢献、特にアジアへ貢献する大学を目指す。	1 【e-learningシステムを活用したリカレント教育の充実】 ①e-learningシステムを使用して歯科医師、歯科衛生士及び医療従事者を対象のリカレント教育を行う。 ○達成目標 ・利用者数 ：150人 ・利用者アンケート ：内容に対する満足度50%以上	【中期目標期間の実施状況】 ・同窓会員に対して広報活動を実施した。(H18) ・大学ホームページに「Q-shidaiセミ」を開設し、インターネットで「口腔と健康」及び「救急蘇生」に関する情報提供を開始した。情報処理室に嘱託職員を配置するなど体制を整えた。有償化に向けてアンケート調査を実施し、デモンストレーションバージョンが画像的にも内容的にも優れたものであるという評価を受けた。(H19) ・e-learningの広報「Q-shidaiセミ」の満足度調査を行うためのアンケートページの作成を行った。(H21) ・「Q-shidaiセミ」のコンテンツ数については、「口腔ケア」、「緊急蘇生」、「歯周病」、「インプラント」等徐々に番組を追加し、H23年度現在で合計20番組にまで拡充した。 ○目標実績	e-learning利用者数	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	2 【歯科保健医療情報の提供】 ①ホームページによる歯科保健医療情報(診療科及び診療内容など)の提供を充実させる。 ②北九州及び筑豊生活圏の基幹的病院として、診療所では対応困難な歯科医療、または診療情報を提供する。 ○達成目標 ・病診連携件数 ：年間3,200 毎年1%増を図る。	【中期目標期間の実施状況】 ・病診連携パンフレットの作成と配付を行った。大学ホームページを作成し活用した。(H18-23) ・附属病院の主要業務範囲となる北九州・筑豊生活圏に所在する1,395の歯科診療所に、H19年度に新たに作成した病診連携パンフレットを毎年配布した。(H19-22) ・上記のとおり、近隣医療機関等へのPRを行った結果、病診連携件数は年々伸びてきている。 ・ホームページに紹介方法を掲載したことにより、紹介患者数が増加した。(H19-23) ・附属病院の診療科見直しを行った関係上、診療科再編に併せた病診連携パンフレットを作成した。(H23)	病診連携件数	H18	H19	H20	H21	H22	H23
	3 【研究成果の地域への発信】 ①各種イベントおよび報告会を利用して地域に向けての研究成果を継続して報告していく。 ②市民公開講座による研究成果の公表を行う。 ○達成目標 ・市民公開講座受講者数 ：500人 ・受講者アンケート ：満足度50%以上	【中期目標期間の実施状況】 ・学長競争枠学術研究費重点配分で得られた研究成果について、市民公開講座として「学術研究報告会」を開催し報告した。(H18-23) ・毎年度、九州歯科大学学術研究費重点配分報告書を作成し配付した。医療系施設（100機関）及び福岡県総務部私学学事振興局学事課と保健医療介護部医療指導課に発送した。(H19-23) ・「北九州4大学スクラム公開講座」を本学が主管運営してH19年度から毎年1回開催した。 ○目標実績	スクラム講座参加者	H18	H19	H20	H21	H22	H23
			同受講者満足度	-	76%	70%	74%	94%	94%

中期計画		計画の実施状況																					
項目	実施事項																						
1 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施の続き	<p>4 【アジア等を主眼に置いた国際貢献の実施】 ①NGOなどの支援を受け、アジア・アフリカの発展途上国における歯科医療技術援助（口腔外科・保存・予防処置を中心として）に継続して取り組む。 ②留学生交流と海外大学との学術交流推進。</p> <p>○達成目標 ・留学生数 : 5人 ・学術交流件数 : 国外3件、国内3件</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発展途上国に対しての歯科医療技術援助に関する取組として、ネパール及びチュニジアへ本学教員、学生を派遣し、医療支援、技術援助を行った。(H18-23) ・学会での講演、報告書、大学案内、ホームページなどで、国際貢献の実績を公開した。(H18-23) ・チュニジア報告会を学内で開催した。(H19) ・ネパール歯科医療支援事業20周年記念式典をH20年11月に大学講堂において、300名余の参加者で開催した。(H20) ・学部、大学院において留学生の受け入れを行った。(H18-23) ・学術交流大学：国外2大学（韓国：延世大学、中国：同済大学） <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>留学生数</td><td>4名</td><td>6名</td><td>5名</td><td>5名</td><td>6名</td><td>6名</td></tr> <tr> <td>学術交流</td><td>2大学</td><td>2大学</td><td>2大学</td><td>2大学</td><td>2大学</td><td>2大学</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	留学生数	4名	6名	5名	5名	6名	6名	学術交流	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
留学生数	4名	6名	5名	5名	6名	6名																	
学術交流	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学	2大学																	
	<p>5 【地域住民の健康増進のための保健プログラムの構築と活用】 ①福岡県民を対象とした口腔保健及び全身の健康に関する保健プログラム・データベースの構築 ②健診事業、データ入力および集計に関して、一括して行う体制を構築する。</p> <p>○達成目標 ・健診事業・データ入力・集計受託実績 : 市町村などからの受託件数 5件</p>	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口腔管理のモデル地区をみやこ町とし住民健診を継続的に実施した。(H18-23) ・みやこ町から町民歯科健診事業を受託した。さらに、H10年度から行ってきた県内9市町村の健診データを分析した。その結果の一部を「福岡8020ニュース」として発行し、県内歯科医師会員に配布し、地域住民への啓発活動を行った。(H18-23) <p>○健診受託件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H18年度 1件（みやこ町は3町：勝山町、犀川町、豊津町が合併したもの） ・H19年度 2件 ・H20年度 3件 ・H21年度 3件 ・H22年度 3件 ・H23年度 3件 																					

社会貢献に関する特記事項

社会貢献活動を総括する社会貢献委員会の下に、地域貢献、産学連携、自治体連携、国際協力、病診連携の各行動推進室を設置し、取組を推進している。

項目別の状況

中期目標 4. 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、全学的な教育研究目標を策定し、大学の有する資源を最大限に活用して、主体的・自律的な大学運営を確立する。 理事長を補佐するため、事務局による支援体制を強化する。
-----------------	--

項目	中期計画	計画の実施状況
	実施事項	
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップの下、効率的かつ状況に応じて俊敏に対処できる組織運営を目指す。	1 【予算や人員の効果的な配分と事務局機能の強化】 ①理事長が中心となって策定した教育研究目標に従い、全学的視点から予算や人員の効果的な配分を実施する。 ②大学全体の自己点検・評価に基づき、必要に応じて教育研究組織の見直しと再編成を行う。 ③事務局機能を強化する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究費については、学長競争枠研究費の活用等により、大学の教育研究目的に従った配分を行うとともに、予算の一部で若手研究者支援にも取り組んだ。(H18-23) 法人化に伴う業務量増への対応や組織強化を目的として、嘱託職員の積極的な雇用を行った。(H18-23) 附属病院に苦情処理及び未収金回収に従事する専任の嘱託職員を配置した。(H20-23) 決算会計事務については、一時的に外部委託を行う中でそのノウハウを取得し、外部委託終了(H23年6月)後は専門的知識を持った職員を配置して外部監査人等からの指導を受けつつ適正に対応した。 給与支給事務について、事務改善を図るため、外部委託を試行した。(H23) 事務局職員のノウハウの継続性を維持するため、プロパー採用計画を策定し、県立3大学合同で職員採用試験を実施した。(H23)
	2 【安全管理体制の充実】 ①学生や教員の実験・実習・災害時等の安全対策を実施する。 ②ヒヤリハットについての報告を徹底し、事故防止のための対策を実施する。 ③院内感染および医療事故に関する講習会を開催する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント部会、医療事故予防対策委員会及び院内感染委員会を毎月1回開催し、ヒヤリハットや事故防止策について職員に周知した。(H18-23) H20年度に設置した安全防災委員会が中心となって、協議、組織の整備、準備等を進め、H23年度に防災計画を策定した。 新入生オリエンテーションや体育の授業を活用して、救命救急に関する事項を詳しく説明した。(H20-23) 院内感染及び医療事故防止に関する講習会を年2回開催した。(H18-23) 実習に起こりうる学生の事故防止対策として事例集を作成した。(H19) 院内感染防止のため、毎月1回の院内巡回を行い、きめ細やかな指摘や注意を行った。(H20-23) 院内感染及び医療事故に関する講習会を年2回実施した。(H18-23) 新型インフルエンザの予防については、全教職員及び学生に対してメール、ホームページ、チラシ等を通じて注意喚起を行った。(H18-23)
2 人事の適正化 人事評価システムを整備し活用することで柔軟で多様な人事制度を構築する。	1 【教員個人業績評価制度の導入】 ①教員個人業務評価システムを導入する。 ②教員給与に個人業績評価結果を反映させる。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人業績評価制度を導入し、全教職員に周知徹底した。(H18) 評価結果の給与への反映を行った。(H19-23) 同僚による授業評価を本格導入し、制度をブラッシュアップした。(H20) 個人業績評価が上位であるか、又は業績が改善した教員に、給与を上乗せして支給する制度を、必要に応じて見直しを行ながら実施した。(H20-23) 個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を行った。(H21-23)

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
2 人事の適正化の 手続き	2 【任期制の導入】 ①全教員を対象とした任期制を導入する。	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none">・任期制を導入した。(H18)・対象者の任期制への移行を順次進めた。(H18-23)・「任期制教員再任基準」を理事会の議を経て決定し、全学説明会及びホームページで全教職員に周知した。(H20)・副理事長を委員長とする「再任審査委員会」を設置した。(H22)・「再任審査委員会」において、所定の手続きに則り、対象教員に対する審査、再任の適否の決定を行った。(H22-23)

項目別の状況

中期目標 5. 財務	「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、重要な自己財源である学生納付金のあり方について検討するとともに、外部研究資金の獲得に努め、社会人向け教育サービスや資産の有効活用などによる新たな収入の確保にも積極的に取り組む。 経費については、人員配置や業務内容の見直しを推進し、その抑制を図る。 附属病院については、医療サービスの向上と経営の改善に積極的に取り組む。
---------------	---

中期計画		計画の実施状況														
項目	実施事項															
1　自己収入の増加 ・学生納付金のあり方を検討する。 ・附属病院の患者紹介率アップ、資産の有効活用、外部からの研究費獲得の増加等の方策により、自己収入の増加を図る。	1 【学生納付金の確保とあり方検討】 ①学生納付金のあり方を検討する。 ②未納金に対する取り組みを強化する。 ○達成目標 ・収納率 ：100%	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19年度から教員と事務局職員で構成する「連絡会」を設置し、情報の共有化に努めている。 ・財務管理班及び学生支援班において、授業料等未納学生の情報共有を密に行い、未納者に対しては呼出、納付相談及び保護者への督促等を実施してきた結果、収納率においては順調に成果を収めてきた。 ・期間末においては過年度を含めた未納を全て解消し収納率100%達成となった。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>収納率</td><td>99.8%</td><td>100%</td><td>99.9%</td><td>99.6%</td><td>99.8%</td><td>100%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	収納率	99.8%	100%	99.9%	99.6%	99.8%	100%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23										
収納率	99.8%	100%	99.9%	99.6%	99.8%	100%										
2 【診療報酬の確保】 ①患者紹介率の向上を図る。 ②人間ドック、歯科ドックなど検診分野での収入増を図る。 ○達成目標 ・患者紹介率 ：30%以上	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○近隣の医師会や歯科医院への働きかけにより、患者紹介率は年々増加している。H21年度にはリーフレットの改善を行った。 ・H18年度 患者紹介率：33.4%　・H21年度 患者紹介率：40.3% ・H19年度 患者紹介率：38.0%　・H22年度 患者紹介率：40.5% ・H20年度 患者紹介率：40.1%　・H23年度 患者紹介率：38.8% <p>○人間ドックの収入及び歯科検診に係る収入ともに低迷している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H18年度 人間ドック：361千円 ・H19年度 人間ドック：722千円 ・H20年度 人間ドック：723千円 歯科検診：829千円 ・H21年度 人間ドック：361千円 歯科検診：925千円 ・H22年度 人間ドック：559千円 歯科検診：495千円 ・H23年度 人間ドック：361千円 歯科検診：478千円 <p>○H20年度には、念願であった大腸ガン、前立腺ガン、肝炎ウイルス及び胃ガンの特定検診をスタートさせた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H20年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診：38千円 特定健診：211千円 ・H21年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診：49千円 特定健診：410千円 ・H22年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診：57千円 特定健診：361千円 ・H23年度 大腸・前立腺・肝炎ウイルス・胃ガン検診：22千円 特定健診：479千円 <p>○H21年度には、キャンパス内禁煙について敷地内に看板の設置を行い、附属病院内に禁煙外来を設置した。</p>															

中期計画		計画の実施状況																					
項目	実施事項																						
1 自己収入の増加の続き	3 【施設整備の有効活用等】 ①共同研究室、教室等の施設設備を有効活用し収入増を図る。 ②e-learningによる収入増を図る。 ○達成目標 ・ e-learningによる収入額 : 2,400万円	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学施設の有効活用については、「学外者施設利用要綱」を策定し、各種イベント等の利用を推進する中で、中期目標期間の6年間において施設利用料等64,481千円の収入があった。 <p>○施設利用料</p> <ul style="list-style-type: none"> H18年度 8,051千円 H19年度 12,921千円 H20年度 13,016千円 H21年度 12,400千円 H22年度 10,594千円 H23年度 7,499千円 <ul style="list-style-type: none"> 「e-learning」については、コンテンツの充実に努めてきたが、受講料収入を得るまでには至らなかった。 																					
	4 【外部研究資金の增收】 研究の活性化のために、科学研究費補助金、各種研究開発事業助成金、企業からの共同研究費、受託研究費、奨学寄附金の獲得増および知的財産を利用した収入の増を図る。 ○達成目標 ・ 外部研究資金収入 : 1億円	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教授会を中心に、科研費をはじめとする外部研究資金の募集情報や応募・採択情報の共有に努め、特に若手研究者の応募を促進した。 知的財産に係る収入増を図るため、北九州産業学術推進機構（北九州TLO）を活用した特許の申請及び運用を行ったほか、企業との連携にも積極的に取り組んできた。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外部研究資金収入</td><td>120,763千円</td><td>123,721千円</td><td>163,069千円</td><td>132,883千円</td><td>169,109千円</td><td>185,898千円</td></tr> <tr> <td>知的財産使用料収入</td><td>156千円</td><td>280千円</td><td>57千円</td><td>62千円</td><td>9千円</td><td>23千円</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	外部研究資金収入	120,763千円	123,721千円	163,069千円	132,883千円	169,109千円	185,898千円	知的財産使用料収入	156千円	280千円	57千円	62千円	9千円	23千円
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
外部研究資金収入	120,763千円	123,721千円	163,069千円	132,883千円	169,109千円	185,898千円																	
知的財産使用料収入	156千円	280千円	57千円	62千円	9千円	23千円																	
2 経費の抑制 職員の意識改革を進めるとともに、経費の削減に取り組む。	1 【人件費の抑制】 ①設置基準を踏まえ、人員配置を見直す。 ②業務内容や手順を洗い直し、適切に人員を配置する。 ○達成目標 ・ 人件費削減率 : 法人化前の5%以上	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員については、退職者の不補充や分野廃止に伴う現員数での配置換えなど大学全体のバランスを考慮した適正配置に努め、設置基準を遵守した人事管理を行い、また事務職員については病院事務において外部委託化を進めるなど、人件費の抑制に努めた。 事務部門の業務内容の見直しや外部委託化などにより、時間外勤務手当の削減を進めた。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人件費(退職金を除く)</td><td>1,889百万円</td><td>1,908百万円</td><td>1,857百万円</td><td>1,752百万円</td><td>1,815百万円</td><td>1,818百万円</td></tr> <tr> <td>H17(1,988百万円)からの削減率</td><td>5.0%</td><td>4.0%</td><td>6.6%</td><td>11.9%</td><td>8.7%</td><td>8.6%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	人件費(退職金を除く)	1,889百万円	1,908百万円	1,857百万円	1,752百万円	1,815百万円	1,818百万円	H17(1,988百万円)からの削減率	5.0%	4.0%	6.6%	11.9%	8.7%	8.6%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
人件費(退職金を除く)	1,889百万円	1,908百万円	1,857百万円	1,752百万円	1,815百万円	1,818百万円																	
H17(1,988百万円)からの削減率	5.0%	4.0%	6.6%	11.9%	8.7%	8.6%																	

中期計画		計画の実施状況																					
項目	実施事項																						
2 経費の抑制の継続	<p>2 【職員の意識改革、経費の節減】</p> <p>①附属病院において、診療科ごとに患者数、収支を把握し、これを職員ひとり一人に周知することにより、経営に関する意識改革を進める。</p> <p>②光熱水費、コピー経費、その他の経費の節約を、全教員へ周知徹底する。</p> <p>③九州工業大学、産業医科大学との学術交流協定に基づき設備を相互活用することにより、設備の有効利用、整備費の削減を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光熱水費、コピー経費、他の経費の削減率 ：4% 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理事長が主催する全学説明会や新任教職員のオリエンテーションにおいて、法人の経費構造等を説明し、法人職員としての経営感覚の醸成を図った。(H18-23) ・光熱水費の削減については、消灯の徹底、共用部分照明の間引き、空調設定温度の変更、エレベーター利用の適正化、講堂棟エレベーター稼働停止等の取組を継続及び強化した。(H18-23) ・コピー費用については、両面コピーの徹底、電子データ活用等の推進を図り経費削減に取り組んだ。(H18-23) ・附属病院において、診療科別の実績を病院運営部会へ報告し、病院経営に関する意識の向上に努めるとともに、診療材料費についてはSPDシステムの委託により見直しを図った。(H18-23) <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>光熱水費</td><td>179,102千円</td><td>201,355千円</td><td>213,113千円</td><td>197,189千円</td><td>205,442千円</td><td>214,071千円</td></tr> <tr> <td>対前年度比</td><td>108.8%</td><td>112.4%</td><td>105.8%</td><td>92.5%</td><td>104.2%</td><td>104.2%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	光熱水費	179,102千円	201,355千円	213,113千円	197,189千円	205,442千円	214,071千円	対前年度比	108.8%	112.4%	105.8%	92.5%	104.2%	104.2%
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
光熱水費	179,102千円	201,355千円	213,113千円	197,189千円	205,442千円	214,071千円																	
対前年度比	108.8%	112.4%	105.8%	92.5%	104.2%	104.2%																	
3 附属病院経営の改善 医療サービスの向上等による患者の確保、業務の見直し・効率化等による人員の効率的配置、経費の削減を通じ、経営改善を図る。	<p>1 【地域医療サービスの向上の推進】</p> <p>①摂食機能リハビリテーションを中心として、要介護者の摂食・嚥下のリハビリテーションを行う。</p> <p>②歯科医師会等との連携を強化し、訪問診療・病診連携・病病連携の体制を充実させる。</p> <p>③患者ニーズを把握するために、地域住民との懇談会を設置する。</p> <p>④ボランティアの受入れを行う。</p> <p>⑤口腔健診業務への参入を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者紹介率 ：30%以上 ・患者アンケート ：教職員の対応やサービスに関する満足度（普通より上のレベル）70% 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H19年度から入院患者に対する口腔ケアの指導体制を強化し、摂食・嚥下内視鏡検査の画像などの提示・説明を行うなど、患者の満足度の向上に努めた。 延べ患者数 H19年度：220名 H22年度：468名 H20年度：275名 H23年度：300名 H21年度：492名 収入額 H19年度：407千円 H22年度：699千円 H20年度：729千円 H23年度：400千円 H21年度：764千円 ・訪問診療については、H19年度から2病院と連携して定期的に実施した。 件数はH19年度195件 →H20年度381件 →H21年度178件 →H22年度164件 →H23年度169件 ・患者ニーズを把握するための地域住民との懇談会の実施には至らなかったものの、H19年度に4大学スクラム講座を聴講した地域住民の歯科相談に応じたほか、病院への要望や歯の悩みを聞くロビーコンサートを実施した。H21年度には、附属病院主催で「第1回お口の健康セミナー」を開催し、非常に好評であったためH22年度から定期的に行うこととした。 ・H21年度は、泉台校区町づくり推進協議会との連携を開始し、H22年度及びH23年度は理事長が泉台校区自治会との懇談会に出席し、今後の連携方法について検討した結果、H24年度から出前講座を開始することとなった。 ・口腔健診業務は、みやこ町と西南女学院に加え、H20年度から口腔保健協会でも実施した。 <p>○目標実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>H18</th><th>H19</th><th>H20</th><th>H21</th><th>H22</th><th>H23</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>患者紹介率</td><td>33.4%</td><td>38.0%</td><td>40.1%</td><td>40.3%</td><td>40.5%</td><td>38.8%</td></tr> </tbody> </table>		H18	H19	H20	H21	H22	H23	患者紹介率	33.4%	38.0%	40.1%	40.3%	40.5%	38.8%							
	H18	H19	H20	H21	H22	H23																	
患者紹介率	33.4%	38.0%	40.1%	40.3%	40.5%	38.8%																	

中期計画		計画の実施状況
項目	実施事項	
3 附属病院経営の改善の続き	<p>2 【経営の効率化を推進するためのシステムの構築】</p> <p>①教職員の適正配置を行い、専門外来（口腔外科や歯周病科など）における先進医療を進める。</p> <p>②治療や看護の手順を標準化し、診療の効率化を図るクリティカル・パス（標準的な臨床指針）を導入する。</p> <p>③附属病院の薬剤業務を院外処方にし、薬剤師は入院患者への薬剤情報提供を専門に行い、入院患者へのサービスを図る。</p> <p>④附属病院のホームページを利用した診療に関するサービスを提供する。</p> <p>⑤歯科材料を効率的に流通させるシステムを導入し、材料費の削減を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者アンケート <ul style="list-style-type: none"> : 教職員の対応やサービスに関する満足度（普通より上のレベル）70% ・医療材料費率 <ul style="list-style-type: none"> : 18年度中に、適正な医療材料を明確にして数値目標の設定を行う。 	<p>【中期目標期間の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度先進医療に関して保険給付を受ける特定承認保険医療機関となるため、H18年度から承認申請を行い、H20年度にインプラント及び歯周病に関し先進医療の認定を受けた。H21年度からは、H20年度に承認された2件の先進医療を進めている。また、新規先進医療保存科及び義歯科において、申請に向けて症例を収集中である。先進医療に関する詳細は、随時ホームページで更新している。 ・治療や看護の手順を標準化し診療の効率化を図るためのクリティカル・パスについては、各診療科のマニュアルをもとに検討を進め、外来患者が最も多い保存診療科を手始めとしてH20年度に口腔外科及び補綴が完了した。H21年度には、各科共通の九州歯科大学附属病院クリティカル・パスが完成し各診療科に配付した。 ・H23年12月から院外処方を実施し、薬剤師は入院患者に対する服薬指導を開始した。なお、入院患者への情報提供の充実を図るために、薬剤師を現在の2名から3名に増員すべく募集中である。 ・ホームページにおいて、新規に導入した技術や治療法を公開したほか、歯科医院向けに患者紹介方法を掲載し、情報サービスを行った。H21年度は、マイナーチェンジ（各診療科で新しい治療法や材料等の情報提供）を行ってきた。 ・H22年度に行われた診療科目の再編をふまえた病診連携パンフレットやリーフレットを作製した。 ・効率的な歯科材料流通システムを実現するため物品供給管理室業務（S P D）を導入し、不必要材料の発注中止や同種材料の統一化を行い、より効果的な在庫管理が可能となった。これにより、病院収入に対する材料費の割合は、H19年度16.2% → H20年度15.9% → H21年度14.0%となった。

項目別の状況

中期目標 6. 評価	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。」 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、その評価結果を速やかに公表する。 計画・実行・評価・改善の仕組みを確立し、教員の個人業績評価、県評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。
---------------	---

中期計画		計画の実施状況
項目		
1 評価の充実 ・教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を行い、その結果を公表する。 ・県評価委員会や認証評価機関の評価結果を大学運営に反映させる。 ・教員の個人業績評価を給与に反映させる。	1 【大学評価・個人業績評価の充実と評価結果の公表・反映】 ①大学運営に関する自己点検・評価を実施するとともに、県評価委員会と学外認証評価機関が行った評価結果を教育研究や大学運営改善に反映させる。 ②教員の個人業績評価を給与に反映させる。	【中期目標期間の実施状況】 ・大学評価・学位授与機構による外部評価に向け、H18年度には自己点検・評価作業部会を、また、H20年度には学長直属の認証評価委員会を設置し、大学自らが自己点検・評価を行える体制を整え、受審のための具体的な準備を進めた。その結果、H22年度に実施された認証評価においては、「大学評価基準を満たしている」との評価がなされた。 ・公立大学法人評価委員会から受けた評価結果については、毎年全学説明会において学長が教職員に周知するとともに、業務実績報告書としてホームページへの掲載を行ってきたところであり、これらの取組を通じて運営の改善につなげてきた。 ・H18年度の試行結果をもとに、個人業績評価を給与に反映する仕組みをH19年度に導入、その後特別賞の創設等システムの充実を図りながら、同制度の着実な運用を行った。 ・H21年度からは、個人業績評価が低い教員に対する学部長の面談・指導措置を開始した。

項目別の状況

中期目標 7. 情報公開	「情報公開を積極的に推進する。」 入学希望者、学生、県民、企業などに対し、次のような情報を積極的に提供する。 <ul style="list-style-type: none"> ・大学や教員の評価に関する情報 ・組織、教職員、施設設備、入学試験などに関する情報 ・カリキュラム、シラバス、教員の研究成果や地域貢献活動などに関する情報 ・学生の就職支援や卒業生の進路状況に関する情報 ・公開講座、大学施設の開放などに関する情報 ・予算や決算など財務に関する情報
-----------------	--

中期計画	実施事項	計画の実施状況
項目		
1 情報の公開等の推進 情報の公開・提供の推進及び個人情報の保護	1 【情報公開に関するガイドラインの作成および情報公開の積極的な推進】 ①大学情報の積極的な公開を推進するために、情報公開に関するガイドラインの作成を検討する。また、常に新しい、充実した内容が掲載されるよう、ホームページの充実を図っていく。 ②シラバス、研究成果、入試情報、事業計画、中期計画、組織・運営情報などの各種情報を広く公表する。	【中期目標期間の実施状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイドラインは県の関係規程を準用した。大学及び附属病院のホームページを全面改修し、更新した。(H18) ・法人の情報公開・広報活動を統括する組織として広報委員会を新設した。ホームページの運用管理要領並びにガイドラインを策定し、専門部会による趣旨徹底を実施した。ホームページは、豊富な新着情報や「附属病院」、「Q-shidaiゼミ」欄の新設等の内容の充実が図られ、法人による広報活動の中核の役割を果たすようになった。e-learning推進のため採用した嘱託職員をホームページの運用管理にも活用し、円滑な稼働を行った。(H19) ・広報委員会を広報・情報委員会（年2回開催）に改編した。法人情報の公開、ホームページの運用・管理方法を策定した。さらにホームページによる情報公開やメーリングリスト設置のガイドラインを定めた。ホームページのカテゴリー内の更新は、担当責任部署で行うことを決定した。さらに、広報・情報委員会のもとに「ホームページ専門部会」を設置して運用の適正な管理を行った。一般の方が見易く分かり易くする工夫として、各対象者別に保護者欄や一般・企業欄を新設し情報を提供した。トップページ上に重要な「お知らせ」が一覧表示されるようになった。(H20) ・ホームページ内容ごとに事務の担当責任部署を明確にした。統括部署が内容を確認するなど運用管理体制を改善した。その結果、公開が望ましい情報や新着情報の提供を円滑に行うことができた。H20年度に策定されたガイドラインや運用ルールを学内専用ホームページに掲載し、引き続き周知に努めた。また、全教職員に対して、情報公開に関する研修を行った。(H21-23)
	2 【個人情報保護の徹底】 福岡県個人情報保護条例に基づき、大学が保有する個人情報の保護に努める。そのために、教職員に対し、個人情報保護に関する意識を徹底させる。また、コンピューターからの情報漏洩を防ぐため、インターネット等のセキュリティの強化を図る。	【中期目標期間の実施状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局ネットワークを学内LANに収容した際に、ファイヤーウォールを設置し、事務局内の情報が他のネットワークに漏洩しないための対策を施しセキュリティを強化した。本館に新システムを構築した。福岡県個人情報保護条例に準じた個人情報保護方針を「広報委員会」において策定した。全職員にその趣旨を徹底するため、H19年度には福岡県県民情報広報課の協力を得て12月に「個人情報・情報公開研修会」を開催した。患者情報の管理については「診療情報に関するガイドライン」に従った取扱いを徹底した。新本館移転後に稼働した新システムに、新たに「ファイヤーウォール」機器を導入し、厳格なセキュリティ管理を実施した。H18年度に導入した旧システムの「ファイヤーウォール」機器は、「三大学財務システム」に活用し、三大学の財務・会計情報のセキュリティ管理を強化した。内部PC間ウイルス蔓延や「ウィニイ」による不正データ榨取を防ぐため、学内全PCにセキュリティソフト「ウイルスバスター」を配付し、情報システムの安全運用を図った。(H18-19) ・前年度に引き続き個人情報保護及び情報公開の趣旨を徹底するため、大学内全職員に対して、福岡県県民情報広報課の職員を講師に迎えて研修会を開催した。附属病院のカルテなど、個人情報に関する文書を選別した上で、病院職員に対し適正な取扱いを個別に指導した。H18年度に整備したゲートウェイ対策を引き続き維持運用した。クライアント対策についても、法人で対策ソフトを一括導入した。学内のパソコンの運用を管理・監視する方法として、集中管理システムを導入して、一括管理・監視方式を検討した。法人セキュリティポリシー及び情報マネジメントの運用体制について、他大学の情報収集を行い検討を行っている。(H20-23)

項目別の状況

その他中期計画において定める事項

中期計画		計 画		実 績	
I 収支計画予算 及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(単位：百万円)		(単位：百万円)	
		区分	金額	区分	金額
		費用の部	18,410	費用の部	19,850
		業務費	16,965	業務費	18,141
		教育研究経費	1,931	教育研究経費	2,509
		診療経費	2,987	診療経費	3,928
		人件費	12,047	受託研究費等	63
		一般管理費	1,445	人件費	11,640
		(減価償却費 再掲)	(581)	一般管理費	1,487
				(減価償却費 再掲)	(1,036)
		収益の部	18,410	財務費用	12
		運営費交付金収益	8,337	雑損	4
		授業料収益	2,187	臨時損失	204
		入学金収益	282		
		検定料収益	101		
		附属病院収益	6,178	収益の部	20,618
		補助金収益	558	運営費交付金収益	9,376
		雑益	86	授業料収益	2,055
		受託研究等収益	100	入学金収益	350
		寄附金収益	0	検定料収益	56
		資産見返運営費交付金等戻入	59	附属病院収益	6,547
		資産見返補助金戻入	355	補助金収益	629
		資産見返物品受贈額戻入	167	雑益	252
		純利益	0	受託研究等収益	84
				寄附金収益	81
				資産見返運営費交付金等戻入	35
				資産見返補助金戻入	536
				資産見返寄附金戻入	33
				資産見返物品受贈額戻入	148
				財務収益	4
				その他の業務収益	4
				臨時利益	420
				純利益	767

※増減の主な理由

- 費用の部
 - ・教育研究経費
　学科新設に伴う教材費等の増による
 - ・診療経費
　医療機器購入費、診療材料費等の増による
 - ・人件費
　県派遣職員数減、給与改定等に伴う教職員人件費の減による
- 収益の部
 - ・運営費交付金収益
　特別交付金措置等に伴う収入増による
 - ・授業料収益
　授業料減免措置に伴う収入の減による

中期計画		計画	実績											
I 収支計画予算 及び資金計画予算	1. 収支計画予算の続き		<ul style="list-style-type: none"> ・附属病院収益 入院・外来患者数増に伴う収入増による ・雑益 科研費間接経費収入増等に伴う収入増による 											
	2. 資金計画予算	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出</td> <td>18,673 17,829 844 0</td> </tr> <tr> <td>資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 その他収入 投資活動による収入 財務活動による収入</td> <td>18,673 18,005 8,514 2,569 6,178 558 100 86 668 0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出	18,673 17,829 844 0	資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 その他収入 投資活動による収入 財務活動による収入	18,673 18,005 8,514 2,569 6,178 558 100 86 668 0	<p style="text-align: right;">(単位：百万円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出 次期中期目標期間への繰越金</td> <td>20,595 18,308 1,441 270 575</td> </tr> <tr> <td>資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 寄附金収入 その他収入 預り金等の純増加額 投資活動による収入 財務活動による収入 前期中期目標期間よりの繰越金</td> <td>20,595 19,937 9,547 2,524 6,483 891 78 107 285 18 658 0</td> </tr> </tbody> </table>	区分	金額	資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出 次期中期目標期間への繰越金	20,595 18,308 1,441 270 575	資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 寄附金収入 その他収入 預り金等の純増加額 投資活動による収入 財務活動による収入 前期中期目標期間よりの繰越金
区分	金額													
資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出	18,673 17,829 844 0													
資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 その他収入 投資活動による収入 財務活動による収入	18,673 18,005 8,514 2,569 6,178 558 100 86 668 0													
区分	金額													
資金支出 業務活動による支出 投資活動による支出 財務活動による支出 次期中期目標期間への繰越金	20,595 18,308 1,441 270 575													
資金収入 業務活動による収入 運営費交付金による収入 授業料等による収入 附属病院収入 補助金による収入 受託研究等による収入 寄附金収入 その他収入 預り金等の純増加額 投資活動による収入 財務活動による収入 前期中期目標期間よりの繰越金	20,595 19,937 9,547 2,524 6,483 891 78 107 285 18 658 0													
II 短期借入金の限度額	1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし											
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	なし		該当なし											
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		<ul style="list-style-type: none"> ・平成19年度から平成23年度までに取り崩した教育研究診療等改善目的積立金合計417百万円を、次のとおり教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充当した。 <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度 医療事務システムほか 42百万円 ・平成21年度 医療機器 25百万円 ・平成22年度 医療機器、研究機器、ホルムアルデヒド対策工事ほか 124百万円 ・平成23年度 医療機器、動物実験施設空調設備改修ほか 224百万円 											
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1. 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画 なし 2. その他法人の業務に関し必要な事項 なし		該当なし											